

イヒナビ

vol.1

ihinavi

AUGUST-1/2024

旭化成ホームズ株式会社
東京法人支店

熱中症が起こる場所は・・・
3割～4割が住居内
だった！

30年後の日本の気温は・・・
さらに上昇！豪雨や台風も
増加の恐れ

最高気温
40℃超えの夏

快適に過ごせる
全館空調

その家の30年後の
資産価値

2024年夏は要注意！

室内での熱中症に気をつけよう！

20 20
30 30
40 40
50 50

ご存知ですか？熱中症の発生場所の3～4割が **室内** です

総務省消防庁によれば、2017年から2019年に発生した熱中症の発生場所は3割から4割が住居でした。室内で起こる原因は、室温や湿度の上昇、屋外から戻り室内で適切に体を冷やすことができないこと、夜間に冷房を使用せず、屋外の気温が下がっても室温が上がってしまうことが原因だと言われています。



熱中症で搬送されるのは **高齢者** だけではない！

熱中症で搬送された方は、やはり65歳以上の高齢者が54.5%と多いですが、続いて成人（18歳以上～65歳未満）が33.9%、少年（満7歳以上18歳未満）が10.8%、乳幼児が0.8%となっています。

※総務省消防庁「令和4年（5月から9月）の熱中症による救急搬送状況」より

室内熱中症の対策ポイント6箇条

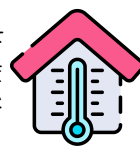
1. 温度と湿度を気にする

温度計などを使用して今の環境を確認。湿度が高い時も熱中症に注意が必要です。冷房機器や除湿器などを使用し、快適な環境を保つようにしましょう。



2. 室温を適切に保つ

扇風機やエアコンを使用して、室温を適度に下げましょう。室温は日当たりなどでも変化します。窓の方角にも注意し、カーテンやシェードなども活用し、快適な室内を保ちましょう。



3. こまめな水分と塩分補給＋休憩

室内にいる時は、のどのかわきを感じにくいので、のどがかわいていなくてもこまめに水分をとりましょう。汗を大量にかいた時は、適度な塩分補給、そして休憩も。



4. 生活リズムを整える

睡眠不足や体調不良、栄養不足も熱中症になる危険を高めます。バランスのよい食事やしっかりとした睡眠をとり、丈夫な体をつくりましょう。



5. 体を暑さに慣れさせる

体が暑さに慣れていない状態での急な暑さは熱中症になりやすくなります。適度な運動や、湯船につかって入浴をすることで、体を暑さに慣れさせましょう。



6. お互いに気にかける

室内でも熱中症になるかもしれないということを覚えておき、周囲の人にも伝えましょう。家族や友人同士でお互い気にかけることも大切です。



激しい気候変動

30年後の日本はどうなるの？

2030年頃には、気温が **1.5℃上昇** する可能性も！

国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）で発表されたデータによると、2030年前後に産業革命前に比べて地球の平均気温が1.5度上昇するとのこと。その前の発表よりも10年ほど早まっていることが伝えられました。つまり、これからまだ平均気温は上がっていくということです。今年の夏はもちろん、その先のことも考えておくことが大切です。

※IPCC第6次評価報告書より

気温上昇は、私たちの生活にどう影響するの？

平均気温が1℃上がると日本の猛暑日は1.8倍に増えると気象庁気象研究所と東京大学大気海洋研究所、そして国立環境研究所の共同研究グループが発表をしています。さらに温暖化により、台風や豪雨などの風水害が増え、そして熱波や干ばつも広がります。これから年々、平均気温が上昇していき、私たちの生活にも大きな変化が出てくることを理解し、対策を考えておくことが大切です。



風水害が
増えていく

予測できる災害と予測できない災害がある！

これからは風水害はさらに増えていくことが予想されます。そのための対策を施し、そして予測できない災害に対しての対策も考えておくことが大切です。

予測できる災害

台風・風水害 雪害など



台風や風水害、雪害などは、ある程度天気予報などで事前に予測ができます。その場合は、早めに対策を施し、避難所などの確認をして、どう行動するかを考えていきましょう。

予測できない災害

地震・津波 など



地震はいつ起こるか、なかなか予測が付きません。南海トラフなども30年以内に70%の確率といった広い予測になります。そのため明日来る可能性もあることを認識して起きましょう。

猛暑も快適に 全館空調

扉を開けたままでも
気にならない



不快なエアコンの風が
気にならない



ヒートショックや
熱中症対策に



温度変化に弱い
ペットも安心



室内熱中症予防にもなる

居室間の移動が
苦にならない



シニア層の
体温調整サポートに



ヘーベルハウスの全館空調はここが違う！

室内での熱中症が増えていく中、家族の健康を守ってくれる「全館空調」に注目が集まっています。居室毎にエアコンを設置するより、家全体の温度を保ってくれるので、室内熱中症対策にもおすすめです。

通気管によるカビや劣化を防ぐ！

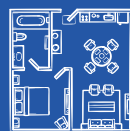
旭化成独自開発の高性能断熱材「ネオマフォーム」を使用しどの部分も均一な厚さに設計しているので通気管のカビや劣化を防ぎます。



機械室が不要！

（熱交換型ロングライフ・エコ換気システムHGを採用する場合は、機械室が必要になります）

廊下の天井や室内機を設置するため、居室の広さやの間取りへの影響も少ないので、思い描いた間取りが実現できます。



フロアごとの温度調整が可能！

子世帯のフロアは設定温度を少し低くし、親世帯のフロアは設定温度を少し高くするなど、各フロアで好きな温度に設定ができます。



年間の換気による暖冷房負荷を約60%低減！

熱交換型ロングライフ・エコ換気システムで、給気扇周りの温度変化を解消します。



30年後、その家の

資産価値は？

温暖化

大地震

物価高

風水害

円高

ここ数十年で私たちの生活は大きく様変わりしました。
そしてこの変化はこれからも続いていくと予想されています。

<編集後記>

今では当たり前のようにニュースで読まれる「猛暑日」という言葉。この言葉を気象庁が使うようになったのは2007年からです。あれから17年経ち、「猛暑日」という言葉に私たちも慣れ、そして40度以上を観測する「酷暑日」という言葉も耳にするようになりました。日本、そして世界も、これから大きな気象変動は起こり続けていくはずです。そんな中で家を建てたり建て直すことを考えているのであれば、ぜひ、30年後の未来を踏まえた家づくりをしていただきたいと私たちは思っております。

30年以内に、おそらく大地震は発生するでしょう、そして想定し得ない風水害も増えていくことが予想されます。そんな大変動の中でも資産価値が保たれる家を作っておくこと、災害に強い家を作っておくこと、それが皆さんの未来、そして家族の未来に繋がっていくのではないのでしょうか？私たち旭化成ホームズ株式会社東京法人支店のメンバーは、提携先の皆様の未来にお役に立てられる家づくりをご提案させていただきます。ぜひ、お気軽に私どもへご相談いただければ幸いです。

旭化成ホームズ株式会社 東京法人支店